

2025年度 早稲田大学校友会

# 東京三多摩支部大会



2025年9月7日（日）

大隈記念講堂 小講堂

大隈ガーデンハウス

主幹稲門会

東大和稲門会 武蔵村山稲門会

あきる野稲門会 福生稲門会

## ご 挨拶

今年度の東京三多摩支部大会、7年ぶりに「都の西北 早稲田の杜」で開催させて頂くことといたしました。久々に母校を訪れたという方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

本日は、ご来賓として早稲田大学常任理事・校友会代表幹事の萬代晃様をはじめ大学から菊池馨実理事、松尾亜弓校友会常任幹事・総長室長兼本庄プロジェクト推進室長、藤澤誠東京三多摩地域コーディネーター・教務部教育企画課長をお迎えし、また、東京都23区支部の吉田誠男支部長、さらに、来る10月19日に開催される稲門祭実行委員会より、鈴木紳互委員長はじめ3名の方々にもお越しいただいております。そして東京三多摩支部26稲門会の皆様には、ご多忙のところ多数ご出席を賜り心から御礼申し上げます。

東京三多摩支部は、その前身である「三多摩稲門連合会」が1979年に発足し、2003年発展的に「東京三多摩支部」に改称、そして2010年には東京都にある26市すべてに稲門会が設立されました。その後ブロックの再編成を経て現在の組織体制に至りました。

支部の基本活動方針は、「東京三多摩地区の各稲門会の拡大発展を基本とし、各稲門会の交流、親睦と大学事業に対する支援を行う」ことですが、その他地域社会に対する貢献、組織の若返りや女性会員の増強などもそれぞれのお立場で推進されていることと存じます。

一方、懸命な努力にもかかわらず、会員の高齢化や会員数の減少は各稲門会に共通する大きな悩みではないかとも拝察いたしております。さらに東京三多摩支部は、「支部長複数年化」という長年の課題も抱えています。現在の3ブロックの会員数のアンバランスや、少人数稲門会の存続問題も内包しており、難しい問題も山積しているというのが実情ではないでしょうか。こうした状況を踏まえ、今年度より「支部長複数年制への移行等に向けた検討委員会」を開催し、諸問題を検討してまいります。

このような重い課題を抱える中、今年度は初めて4つの市の稲門会が合同で主幹を担うことになりました。個々の稲門会は会員数も少なく非力ですが、力を合わせてなんとか皆様のご期待に沿えるよう頑張っておりますのでどうぞよろしくお願い申し上げます。

2025年9月7日

早稲田大学校友会 東京三多摩支部  
支部長 上田 正秋

# 早稲田大学校友会 東京三多摩支部大会

## 次 第

期 日 2025年9月7日(日)

会 場 早稲田大学 大隈記念講堂小講堂／大隈ガーデンハウス

### 第一部 式 典 14:00～14:30

司会：東京三多摩支部 幹事 阿部 晴彦

開会の辞 東京三多摩支部 支部長 上田 正秋

ご来賓紹介

ご来賓挨拶 早稲田大学常任理事／早稲田大学校友会代表幹事 萬代 晃 様

活動報告 東京三多摩支部 事務局長 中西 真人

### 第二部 理事講演 14:30～15:00

講師：早稲田大学理事 菊池 馨実 様

タイトル：早稲田大学の現在と未来－創立150周年に向けて－

### 第三部 コンサート 15:15～16:00

出演：作曲家・シンガーソングライター 大谷 明裕 氏

### 第四部 懇親会 16:30～18:00

司会：東京三多摩支部 副支部長 高野 一男

開会の辞 東京三多摩支部 副支部長 荒畑 好佑

ご来賓挨拶 早稲田大学校友会常任幹事／総長室長兼本庄プロジェクト推進室長 松尾 亜弓 様

稲門祭実行委員会挨拶 2025稲門祭実行委員長 鈴木 紳互 様

乾 杯 東京都23区支部 支部長 吉田 誠男 様

応援歌・校歌 早稲田大学応援部

閉会の辞 東京三多摩支部 副支部長 山崎 源太

## ご来賓・ご出席者名簿

ご来賓 早稲田大学常任理事・早稲田大学校友会代表幹事	萬代 晃 様
早稲田大学理事	菊池 馨実 様
早稲田大学校友会常任幹事／総長室長兼本庄プロジェクト推進室長	松尾 亜弓 様
早稲田大学東京三多摩地域コーディネーター／教務部教育企画課長	藤澤 誠 様
早稲田大学校友会 東京都23区支部支部長	吉田 誠男 様

### 出席者 (150 名)

2025 稲門祭実行委員長	鈴木 紳互 様
2025 稲門祭奨学金記念品本部本部長	実籾 富二男 様
2025 稲門祭企画広報本部副本部長	小野 惣一 様

	卒年	学部		卒年	学部
<b>昭島稲門会 (7 名)</b>			<b>清瀬稲門会 (3 名)</b>		
梅田 正宏	S43	理工	神山 和夫	S38	商
小宮山 正前	S50	理工	堀内 知行	S40	理工
秋山 和紀	S44	政経	西村 進	S38	文
浅野 正直	S53	法			
森 正治	S45	法	<b>国立稲門会 (1 名)</b>		
中野 浩伸	S55	社会学	小野沢 純一	S46	理工
山中 皓博	S43	理工			
<b>あきる野稲門会 (4 名)</b>			<b>小金井稲門会 (3 名)</b>		
高野 一男	S53	教育	辻本 英一	S44	政経
柿崎 廣幸	S50	教育	藤井 泰博	S46	商
上田 忠之	S56	教育	関 政己	S50	商
久保 祐司	H09	法			
<b>稲城稲門会 (5 名)</b>			<b>国分寺稲門会 (3 名)</b>		
鈴木 良明	S46	理工	下山 登	S46	商
板東 陽一	S54	法	大橋 忠弘	S47	理工
山田 弘子	S39	文	増本 千明	H22	人科
吉川 康子	S51	政経			
高橋 鋼司	S52	文	<b>小平稲門会 (8 名)</b>		
			大島 二典	S44	理工
<b>青梅稲門会 (3 名)</b>			小山 雄一	S43	法
大倉 十彌也	S43	教育	二又 祐一	S47	商
山崎 茂	S55	政経	河崎 健治	S46	政経
谷内 幸恵	H07	教育	松村 純夫	S51	政経
			宮本 義信	S60	社会学
			平澤 洋	S47	政経
			増田 峰夫	S34	法

**狛江稲門会 (4 名)**

上村 邦雄	S48	法
津村 航平	S48	理工院
牛尼 進	S52	理工院
横田 明彦	S56	理工院

**立川稲門会 (9 名)**

小林 和雄	S47	理工
波多野 進	S38	理工
佐竹 茂市郎	S51	社会学
伊藤 裕康	S55	教育
柴 香里	S61	教育
森 泰親	S51	理工
亀井 裕子	H02	政経
高橋 匡弘	H01	教育
廣瀬 俊夫	S39	文

**多摩稲門会 (6 名)**

尾ノ井 光明	S43	商
稲垣 友三	S52	商
野宇 進	S52	政経
加来 健一郎	S37	政経
倉澤 茂	S48	教育
藤原 雅博	S54	理工

**調布稲門会 (4 名)**

萩原 稔	S55	教育
石田 欽也	S55	商
涌田 みちる	S58	理工
結城 実	S59	政経

**西東京稲門会 (8 名)**

緒方 章	S50	政経
原田 一彦	S46	商
宿利 忠	S43	商
木村 仁	S63	社会学
納田 さおり	H05	人科
辻 直邦	S47	商
下田 正幸	S58	政経
佐倉 哲之助	S54	商

**八王子早稲田会 (10 名)**

加瀬 明彦	S51	政経
土生 憲章	S46	商
露木 肇子	S54	法
原 英男	S60	理工
山部 雄三	H01	政経
安藤 修三	H23	公共経営研究科
加藤 叔永	S61	商
諫山 美保	H19	社会学
吉田 穰	H06	理工
大野 節夫	S54	文

**羽村稲門会 (2 名)**

永島 靖	S58	理工
河原 一郎	S55	教育

**東久留米稲門会 (3 名)**

山口 謙二	S49	政経
小山田 朋樹	S50	文
大矢 真弘	S54	文

**東村山稲門会 (10 名)**

町田 光高	S47	教育
伊藤 栄	H05	理工院
大内 一男	S46	社会学
小野 浩一	S62	商
黒田 祐司	S41	商
小森 敏孝	S51	教育
田邊 正史	S56	理工
平井 康雄	S55	法
藤井 省	S52	理工院
三宅 良太	S36	商

**東大和稲門会 (10 名)**

上田 正秋	S48	商
朝倉 祐治	S55	法
阿部 晴彦	S60	法
諏訪 博己	S54	理工
林 敏	S53	理工
藤井 貞雄	S49	社会学
山崎 松雄	S53	文
平 克巳	S42	商
新井 哲也	H03	文
中西 真人	S63	理工

**日野稲門会 (7名)**

杉本 武彦	S43	理工
京極 英二	S46	政経
上田 實	S46	理工
高戸 章	S48	理工
青木 雅介	S51	理工
福光 洋子	S58	文
秋田 叔彦	S52	法

**府中校友会 (6名)**

鈴木 正明	S54	理工
古曳 享司	S47	法
大島 正敬	S55	理工院
西村 弘美	S56	政経
橋本 好広	S62	文
橋本 美紀	S62	文

**福生稲門会 (4名)**

山崎 源太	S54	文
持田 洸	S41	政経
野口 哲也	H06	教育
中野 恵一	S62	理工

**町田稲門会 (5名)**

武田 善和	S49	商
齋藤 泰弘	S44	文
梅橋 敏博	S47	商
津田 穠治	S59	教育
川島 吉隆	S54	工研

**三鷹稲門会 (7名)**

亀谷 二男	S41	法
布施 雅男	S34	商
村山 豊	S54	法
坊本 亨	S50	商
飛田 秀成	S53	法
堀井 省三	S53	商
熊谷 倫子	S55	文

**武蔵野稲門会 (10名)**

山中 賢一	S50	政経
大村 武志	S58	政経
小田切 清治	S53	社会学
谷岡 毅	S57	理工
杉原 鐵夫	S41	理工
田坂 忠俊	S49	政経
諸江 昭雄	S38	法
松本 恵美子	H29	人科
谷中 竜雄	H14	法
北原 譲	S59	政経

**武蔵村山稲門会 (5名)**

阿部 真	S45	社会学
荒畑 好佑	S51	教育
阿部 義一	S57	教育
山田 義高	S58	教育
徳丸 賢治	H02	理工

## 2025年度 東京三多摩支部 活動報告

### 1. 基本活動方針

東京三多摩地区の各稲門会の拡大発展を基本とし、各稲門会の交流、親睦と大学事業に対する支援を行う。

### 2. 主たる事業計画

#### (1) 東京三多摩支部会長会（定時総会）の開催

日 時：2025年7月6日（日）15：00～18：00

会 場：ビッグボックス東大和

#### (2) 東京三多摩支部大会の開催

日 時：2025年9月7日（日）14：00～18：00

会 場：大隈講堂小講堂／大隈ガーデンハウス

#### (3) 「サロン・ド・三多摩」の出店に対する支援と協力

#### (4) 東京都23区支部・東京三多摩支部合同会長懇話会

日 時：2025年11月29日（土）

場 所：大隈記念タワー 森の風

[主催：東京三多摩支部]

#### (5) 幹事長事務局長連絡会議の開催

各稲門会の幹事長・事務局長をメンバーとし、情報交換と支部運営についての提言等の収集により、支部活動の強化と円滑化を図る。

#### (6) ブロック交流会の開催

各ブロック内における交流の推進

#### (7) 支部長複数年制への移行等に向けた検討委員会の開催

#### (8) 次期主幹稲門会への引き継ぎ会議

時期は2026年1月～4月予定

#### (9) 東京三多摩支部役員会の開催

東京三多摩支部役員をメンバーとし、今年度の支部活動の進捗確認や円滑化を図る。

#### (10) 早稲田大学及び早稲田大学校友会への協力

新9号館建設募金へ50万円寄付

大学および校友会からの各種要請に対する協力

## 2025年度 東京三多摩支部 役員

支 部 長	上田 正秋	東大和稲門会 会長	昭和48年	商
副支部長	荒畑 好佑	武蔵村山稲門会 会長	昭和51年	教育
副支部長	高野 一男	あきる野稲門会 会長	昭和53年	教育
副支部長	山崎 源太	福生稲門会 会長	昭和54年	文
事務局長	中西 真人	東大和稲門会 幹事長	昭和63年	理工
副事務局長	阿部 義一	武蔵村山稲門会 幹事長	昭和57年	教育
副事務局長	柿崎 廣幸	あきる野稲門会 副会長	昭和50年	教育
副事務局長	持田 洸	福生稲門会 幹事長	昭和41年	政経
会計幹事	諏訪 博己	東大和稲門会 副会長兼会計	昭和54年	理工
副会計幹事	山崎 松雄	東大和稲門会 会計監査	昭和53年	文
幹 事	朝倉 祐治	東大和稲門会 副会長	昭和55年	法
幹 事	阿部 晴彦	東大和稲門会 副会長	昭和60年	法
幹 事	林 敏	東大和稲門会 副会長	昭和53年	理工
幹 事	藤井 貞雄	東大和稲門会 副会長	昭和49年	社学
幹 事	鈴木 浩夫	武蔵村山稲門会 副会長	昭和37年	商
幹 事	山田 義高	武蔵村山稲門会 会計幹事	昭和58年	教育
幹 事	上田 忠之	あきる野稲門会 幹事	昭和56年	教育
幹 事	久保 祐司	あきる野稲門会 幹事	平成9年	法
幹 事	篠田 直	福生稲門会 会計幹事	平成14年	人科
幹 事	中野 恵一	福生稲門会 幹事	昭和62年	理工
幹 事	野口 哲也	福生稲門会 副会長	平成6年	教育
監 事	村山 豊	三鷹稲門会 会長	昭和54年	法
監 事	山中 賢一	武蔵野稲門会 会長	昭和50年	政経

※「サロン・ド・三多摩」特命担当

佐竹 茂市郎	立川稲門会 副会長	昭和51年	社学
--------	-----------	-------	----



# 早稲田大学校友会 東京三多摩支部 規約

## 第一章 総 則

- 第一条 本会は、早稲田大学校友会東京三多摩支部と称する。(以下、支部という)
- 第二条 本会は、東京都三多摩地区内に設立された稲門会で組織する。
- 第三条 東京三多摩地区の各稲門会の拡大発展を基本とし、各稲門会の交流、親睦と大学事業に対する支援を目的としてこの規約を定める。
- 第四条 支部の円滑な運営を図るため、三多摩地区を下記の三ブロックに分ける。
- (1) 三多摩東部ブロック  
清瀬稲門会、小金井稲門会、国分寺稲門会、小平稲門会、西東京稲門会、東久留米稲門会、東村山稲門会、三鷹稲門会、武蔵野稲門会
  - (2) 三多摩南部ブロック  
稲城稲門会、狛江稲門会、多摩稲門会、調布稲門会、八王子早稲田会、日野稲門会、府中校友会、町田稲門会
  - (3) 三多摩西部ブロック  
昭島稲門会、あきる野稲門会、青梅稲門会、国立稲門会、立川稲門会、羽村稲門会、東大和稲門会、福生稲門会、武蔵村山稲門会
- 第五条 本会の事務局は第七条に定める主幹稲門会の所属ブロック内に置く。

## 第二章 会長会（総会）および支部大会

- 第六条 支部の催しは、下記の二つとする。
- (1) 東京三多摩支部会長会
    - ①開催：原則として、東京三多摩支部大会に先立って年一回開催する。
    - ②目的：イ、支部稲門会会長の懇親。  
ロ、会長会は支部の定時総会を兼ねるものとし、決算案の承認ほか支部運営のための必要事項の審議を行う。  
総会の議長は支部長が務め、議決は出席稲門会一票とし、過半数で議決する。ただし、可否同数のときは議長が決するものとする。  
ハ、大学が行う事業に対する当支部の対応協議。
  - (2) 東京三多摩支部大会
    - ①開催：毎年一回、原則として年内に開催する。
    - ②目的：東京三多摩地区稲門会会員間の交流・親睦。
    - ③招待：総長および校友会代表幹事。
- 第七条 翌年の主幹稲門会は会長会で決定する。その選出対象は三ブロック持ち回りで、順番は東部ブロック、南部ブロック、西部ブロックとする。

## 第三章 役員およびその選出

- 第八条 支部は役員として支部長一名、副支部長若干名、事務局長一名、監事若干名および必要により幹事若干名（うち1名会計幹事）をおく。
- 第九条 第八条に定める役員（ただし、監事を除く）の選出は、第七条で決定された主幹稲門会が属するブロックにおいて行い、その選出の期限は当該主幹稲門会が決定された年の十二月末日までとする。
- 2 前条の監事は、前項で決定された年度の翌年度主幹稲門会の支部長及び副支部長が務めることとし、その選出期限は前項に準じるものとする。
- 第十条 役員の任期は一年とする。任期途中交代の場合はその残余期間とする。役員の就任は四月一日、退任は三月三十一日とする。

## 第四章 会 計

第十一条 支部の財源は、次に掲げるものを以って充てる。

- (1) 支部年会費 各稲門会当たり一万円
- (2) 寄付金
- (3) 臨時会費（会長会会費、支部大会会費）
- (4) その他収入

第十二条 支部の会計年度は、毎年四月一日に始まり翌年三月三十一日に終わる。

## 第五章 慶弔関係

第十三条 支部内の慶弔は下記により行う。

- (1) 慶事：特に規定しない。
- (2) 現職会長の弔事の場合
  - ①各稲門会（校友会本部を含む）への連絡は、当該稲門会が行う。
  - ②現職会長の訃報の連絡を当該稲門会から受けた場合、東京三多摩支部長名にて生花を手配し、お香典二万円を以って当該稲門会に弔意を表すこととする。

## 第六章 その他

第十四条 各稲門会の總會等における近隣稲門会への呼びかけは、当該稲門会が属するブロックを主とするが、他ブロックの稲門会については当該稲門会の判断にまかせる。

第十五条 支部内各稲門会の大学当局および校友会本部との連絡は、原則として各稲門会が個々に行う。

第十六条 本規約の変更・改訂は、会長会により決定する。

第十七条 早稲田大学が行う記念事業に対して、東京三多摩支部は寄附を含め協力するものとする。

第十八条 貯金（預金）名義変更については、金融機関提出用の規約を使用することができる。

第十九条 稲門会総会に参加する各稲門会の祝金は原則として出席者二名までは五千円、出席者四名迄は一万円とする。

## 付 則

- 1.（施行）本規約は平成十五年四月一日から施行する。
- 2.（改訂）平成十五年八月二十三日
3. 規約第十四条（3）①の追加は平成二十年四月一日に遡及して適用する。  
（平成二十年五月二十八日書面決議）
4. 規約第十六条の改正は、平成二十年六月十七日より施行する。  
（平成二十年六月十七日会長会承認）
5. 規約第十九条は平成二十年三月三十一日をもって失効するが、将来の周年事業実施を鑑み、条文の削除は行わないこととする。（平成二十年六月十七日会長会承認）
6. 規約第四条、同六条、同八条、同九条の改正は、平成二十二年四月一日より施行する。  
（平成二十二年八月二十七日会長会承認）
7. 規約第十四条（2）の②の改正と（3）の削除は平成二十三年八月二十六日より施行する。  
（平成二十三年八月二十六日会長会承認）
8. 規約第四条、同七条の改正は、平成二十九年四月一日より施行する。  
（平成二十八年八月二十八日会長会承認）
9. 規約第八条、同十一条、同十九条を改正し条項の整理を行った。  
（令和元年年八月十八日会長会承認）
10. 規約第十八条を追加した。（令和二年九月二十日書面審議会会長承認）
11. 規約第十九条を追加した。（令和五年七月九日会長会承認）

以上

## 紺碧の空

紺碧の空 仰ぐ日輪 光輝あまねき 伝統のもと  
すぐりし精鋭 闘志は燃えて 理想の王座を占むる者 われ等  
早稲田 早稲田 覇者 覇者 早稲田

青春の時 望む栄光 威力敵無き 精華の誇  
見よこの陣頭 歓喜あふれて 理想の王座を占むる者 われ等  
早稲田 早稲田 覇者 覇者 早稲田

## 早稲田大学校歌

都の西北 早稲田の森に 聳ゆる薨は われらが母校  
われらが日ごろの 抱負を知るや 進取の精神 学の独立  
現世を忘れぬ 久遠の理想 かがやくわれらが 行手を見よや  
わせだ わせだ わせだ わせだ わせだ わせだ わせだ

東西古今の 文化のうしほ 一つに渦巻く 大島国の  
大なる使命を 担ひて立てる われらが行手は 窮り知らず  
やがても久遠の 理想の影は あまねく天下に 輝き布かん  
わせだ わせだ わせだ わせだ わせだ わせだ わせだ

あれ見よかしこの 常磐の森は 心のふるさと われらが母校  
集り散じて 人は変れど 仰ぐは同じき 理想の光  
いざ声そろへて 空もとどろに われらが母校の 名をばたたへん  
わせだ わせだ わせだ わせだ わせだ わせだ わせだ